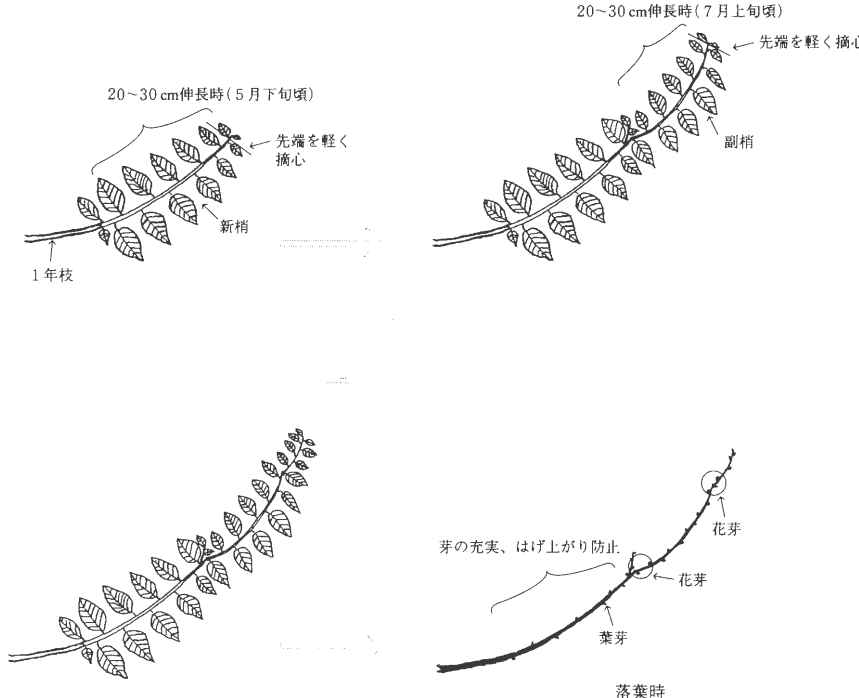


<p>事項</p>	<p>おうとう「南陽」の花芽着生促進のための摘心処理</p>		
<p>ねらい</p>	<p>おうとうの大玉優良品種である「南陽」は、頂部優勢が強く、新梢生育が旺盛で芽が飛びやすいことから、枝がはげやすい性質がある。そこで側枝を作っていく段階で、新梢の伸長を抑制し芽を充実させる方法として、摘心を検討したところ、わい化剤同様に新梢生育の抑制と、枝のコンパクト化及び花芽の着生促進が図られたので参考に供する。</p>		
<p>指導 参考 考 内容</p>	<p>1 強樹勢の新梢に対して、5月下旬に約20～30cm伸長時に先端を軽く摘心する。その後副梢の発生まで1か月程抑制されるが、副梢の生育が旺盛な場合再び20～30cm伸長時に先端を軽く摘心する。</p> <p>2 摘心を行った部位に当年花芽が形成される。</p>  <p style="text-align: center;">図1 摘心の方法</p>		
<p>期待される効果</p>	<p>新梢伸長の抑制と芽が充実し、枝のはげ上がりを防ぐとともに、翌年の花芽着生促進が図られる。</p>		
<p>利用上の注意事項</p>	<p>なし</p>		
<p>担当</p>	<p>青森県りんご試験場 県南果樹研究センター 栽培育種部</p>	<p>対象地域</p>	<p>県下全域</p>
<p>発表文献等</p>	<p>平成10年度 青森県りんご試験場県南果樹研究センター成績概要集 平成11年度 青森県りんご試験場県南果樹研究センター成績概要集</p>		

【根拠となった主要な試験結果】

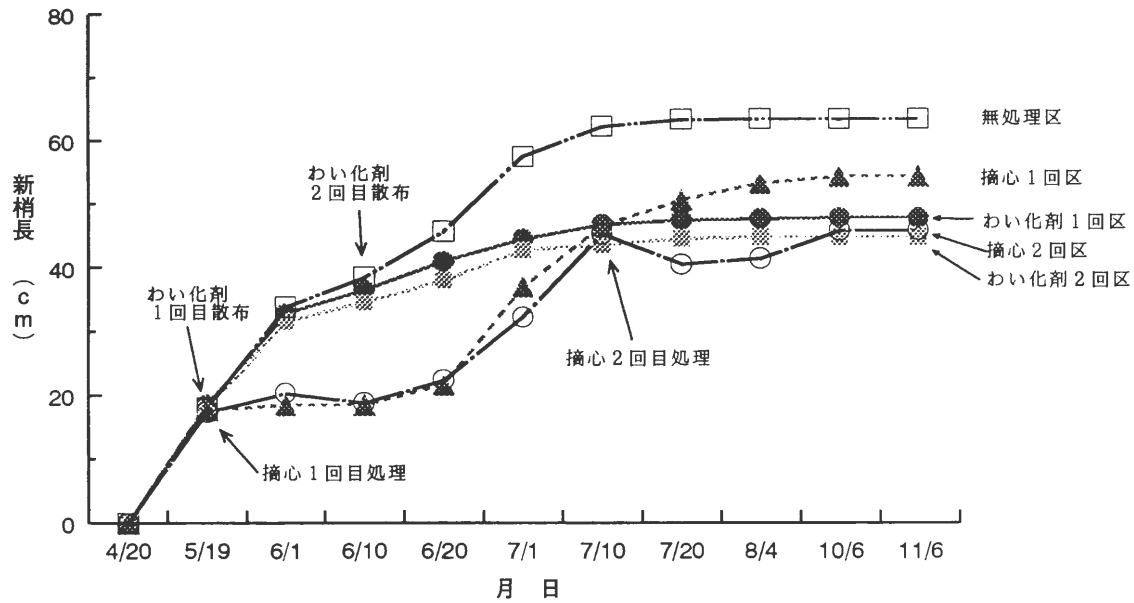


図2 摘心処理が側枝先端の新梢長に及ぼす効果 (平成10年 青森りんご試県南果研セ)  
注) わい化剤はバウンティフロアブル 1000倍散布

表1 処理翌年の側枝の開花した花数 (平成11年 青森りんご試県南果研セ)

区	2年生枝 花数	1年生枝基部 花数	1年生枝摘心部 花数	合計	一花芽当たり花数		
					2年生枝	1年生枝基部	1年生枝摘心部
わい化剤1回	30.7	11.8	0.0	42.5	2.0	2.0	—
わい化剤2回	41.0	14.3	1.4*	56.7	2.2	2.1	2.8
摘心1回	48.5	12.9	9.6	71.0	2.1	2.2	2.1
摘心2回	63.2	14.2	12.5	89.9	2.4	2.3	2.3
無処理	48.8	13.7	0.0	62.5	2.3	2.1	—

注) \* : 1年生枝腋芽に花芽が着生。